いまかね教育かわら版
こんにちは教育委員会です ふたたび

№２１５
２０２５（令和７）年１月２７日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

憧れ

私には理想にしていた教師像がある。教育実習校での指導教官、その後もずっと、今でもお世話になっている大好きな先生である。この年齢になっている私が大好きというのもちょっと(^_^;)とも思うが、好きなものは好きなのである。これ以外の表現がない。

実習先は附属小学校１年 B 組。実習何週目だったか、おそらく終末授業の準備でもしていた放課後だったと思う。教室前の芝生の先の道路を歩いてきた附属の中学生３人が「先生～っ！」と手を振りながら声を掛けてきた。すると、私の目の前にいた先生は「おー」と一瞬で窓から飛び出し、その子たちの方へものすごい勢いで駆けていったのです。上靴のままで･･･。

戻ってきた先生と元担任の中学生の会話は相談というか、ぐちというか、そんな感じだった。先生はそれをうんうんという顔で聞き、「そうかあ。そんなつもりじゃないんじゃない？」というような会話だった記憶がある。はっきりと覚えていることは、その中学生が「ああ、すっきりした。先生、また来ていい？」と笑顔で手を振りながら帰っていったこと。それが、私にとっての理想。子どもを見て窓から飛び出していった先生の姿。そしてその後の会話なのでした。

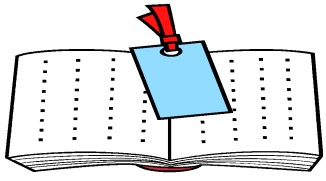
つい先日、北海道新聞・みなみ風“語る”に二日にわたって大きく記事が載っていた、作家でもあり、元函館文学館の館長さん、文芸誌『視線』元編集長。和田　裕先生。ペンネームは木田裕介氏。私は教育実習後もずっとお世話になって、道教委時代は他管内なのに全道研究会の指導案を見ていただいたこともありました。（叱られちゃいますが、もう時効でしょう･･･）。

さらに偶然は、今の自分の職場にいる越野主幹、詩人でペンネームは小篠真琴氏とも旧知の仲であられたこと。びっくりでした。

私にはお二人のような文才がないので、平たい言葉でしか表現できないのですが、私にとって理想の教師、道教委職員。その人柄、授業の姿が大好きなのです。今でもずっと。

もっともその後、今に至るまで、私は教え子に声を掛けられて窓から飛び出して会いに行った経験はありませんが。声が掛からない･･･。人柄の違いかあ･･･(^_^;)。だから理想というわけではないのですがね。





宮中　歌会始の儀

前述の記事が新聞に掲載された日、新春恒例の宮中儀式「歌会始の儀」の中継がありました。そこに入選者として今金小・中学校出身の　**川嵜ななせ　さん**（埼玉県）の姿がありました。

歌は　　***カーテンを　あなたがあけて文鳥と　わたしが同時に　夢からさめる***

ななせさんのお父様お母様、山本先生とは、今金町、せたな町での元同僚。お父様も演劇に詳しかったし、お母様も書や句がお好きな方でしたが、ななせさん　すごいですね。さすが文学部。

今金町が読書と作文の町の施策を始める前の世代ですが、先輩にこんなすごい方がいるということを子どもたちも誇りにしてくれるとうれしいですね。ちなみに　お題は『夢』でした。